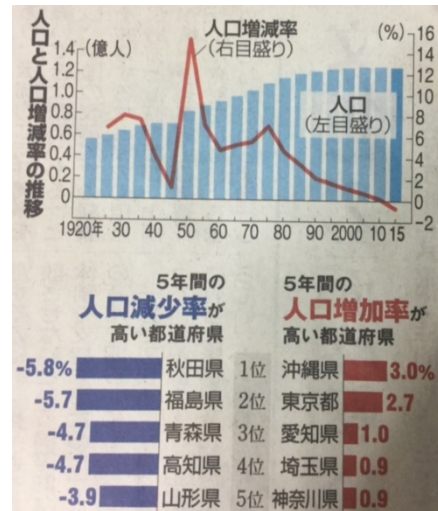


## 15年国勢調査「初のマイナス」

総務省が2月26日に公表した2015年国勢調査の速報値で、日本の総人口は1億2711万人。前回10年の調査より94万7千人(0.7%)減り、1920年の調査開始以来、初めてマイナスとなった。写真は朝日新聞2月26日夕刊。

人口が増えたのは8都県、減ったのは39道府県であった。東京都は35万4千人増、増加率も3.0%と高い。

それに対して、大阪府は1947年の調査開始以来68年ぶりの人口減となった。日経新聞27日朝刊によると、人口の減少数が多かったのは、パナソニックのお膝元である門真市や町工場が密集する東大阪市。東大阪市では大手企業の海外移転による受注減や、後継者難で工場の減少に歯止めがかからない。人口や企業の集積が弱まれば研究開発の力が落ち、競争力低下にもつながる。



この記事で、もうひとつ注目したのが三重県朝日町だ。朝日町の人口は5年で1割増えて1万人を超えた。0~14歳人口の比率も2割を超え、全国トップクラスだ。朝日町は名古屋市まで電車で30分の立地が魅力。3000人規模の住宅を造成し、周辺自治体から子育て世帯を呼び込んだ。町役場の関係者は「周辺の人口を奪っているだけ。造成地域以外では過疎化が止まらない」と冷めた目で見ると。

じつは朝日町について、7年ほど前にレポートしたことがある。写真は東海自治体問題研究所の『合併を超えて自治体自立へ』に掲載された田代兼二郎町長へのインタビューである。2009年3月17日に朝日町「教育文化施設」で長時間にわたり行ったインタビューが思い出される。

その時も「元気なまちづくり 元気な人づくり 1万人構想」が話題になった。合併を選択せず、「自立のまちづくり」を進めている朝日町に関心をもった。朝日町では、その年6月27~28日に「小さくても輝く自治体フォーラム」が開催され、全国から多くの自治体関係者などが集まった。

「人口減少時代」のなかで、今回の国勢調査で朝日町の人口が1万人を超えたことを知り、なんだか感慨深いものがあった。



(2016年3月5日)